

天文台発 ぽらりす

《2026年3月号/毎月初めに天文台職員が情報発信します》



飛び出そう！ 銀河鉄道に乗って・・・

皆さんは、宮沢賢治の童話「銀河鉄道の夜」を読んだことがありますか？

“童話”と言ってもちょっと難解な物語です。複数の解釈本が出ていますので、当時の時代背景、地学、物理学、天文学など、ある程度知らないとう理解できないかもしれません。賢治本人も物語を書いているがしっくりきていなかったのか何度も書き直しをしており、第四次稿で力尽きています。

私(ハンドルネーム: **シマクロ**)が書く「ぽらりす」では、元祖「銀河鉄道の夜」の解説ではなく、「銀河鉄道の夜」というちょっとロマンチックなタイトルを借りて、四季の星空本線・ローカル線を書いていこうと思います。

プロローグ「もう1つの銀河ステーション」

賢治の「銀河鉄道の夜」では、銀河ステーションがどこにあるのか書かれていません。ただ、^{ゆる}緩い丘の頂上で「銀河ステーション」という声(アナウンス?)が聞えることを考えると、どうも丘の上にあるようです。ちょうど札幌市天文台も丘の上にあるので、ここを**もう1つの銀河ステーション**として星空への旅を始めましょう！

旅を始める前に、まずこの銀河ステーションがどこにあるのか知らなければなりません。それも宇宙スケールで……。そのためにはどこかに基準となる点を設けなければなりません。さて、どうしたものか……。

そうだ！ 今月の20日(金)は、**春分の日**です。この日は、地球の赤道面をそのまま天球まで延長した仮想の大円(天の赤道)と太陽の通り道(黄道)の交点に太陽が位置する特別な日です。私たちはこの点(**春分点**)を既に太陽黄経0度、赤経0時(天の座標の1つ)としています。これにもう1つの天の座標(天の赤道=赤緯0度)を合わせると星の位置の基準にできそうです。もちろん地球は、天球の中心になります。(By **シマクロ**)



☆3月の夜間公開(予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

3日(火) 19:00~21:00 皆既月食

13日(金)~15日(日) 19:00~21:00 木星・冬~春の星座

27日(金)~29日(日) 19:00~21:00 月・木星・冬~春の星座

休台日は 2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)、30日(月)です。